2026 年 3 月期 第 2 四半期（中間期） Web 決算説明会 主な質疑応答記録

日時 ： 2025 年 10 月 29 日（水） 12:00 ～ 13:00

出席者 ： 代表取締役 社長執行役員 横田 浩
取締役 常務執行役員 経営企画本部長 井上 智弘

＜多結晶シリコンの出荷状況について＞

Q: 多結晶シリコンについて、どういう状況か。

A: 最先端向けはご案内のとおりで比較的堅調な出荷が続いている。一方、レガシー系（線幅が 7 ナノ以上の半導体向け）はお客様も苦戦しており、稼働・在庫が厳しい状況と聞いている。レガシー系の動向が今後の大きなポイントとなる。

＜歯科器材の出荷状況について＞

Q: 歯科器材に関して、2024 年度末のシステムトラブルの影響は解消されており、通常運転に戻っているという理解でよいか。

A: 出荷は通常ベースだが、受注が従来よりも増えており生産が追い付いていない状況。従来よりも受注残が多くなっており、2025 年度下期で解消していきたい。

＜IVD/IVDM 事業について＞

Q: IVD/IVDM 事業の通期業績予想への織り込み方を解説いただきたい。当初、2025 年度下期へのインパクトは売上高が 60 億円、営業利益はのれん償却を加味するとほぼゼロということだったが、変更はないか。

A: 2025 年度下期ののれん償却前営業利益は約 15 億円程度と見込んでおり、のれん償却費も同額程度発生する見込み。収益的にはプラスマイナスゼロと予想しているが、のれん償却費次第では若干マイナスになる可能性がある。

＜株主還元について＞

Q: 業績が上向きなので、バイサイド投資家から株主還元についての質問が多い。今後も増配を続けていくのか。それとも IVD/IVDM の買収直後であり投資が増えているので、たちまちの増配は考えていないのか。

A: 2025 年度の配当は現在計画している範囲での実施を考えている。先々は投資計画、投資回収の進捗を見つつ判断していくことになるが、一般論としては、もう一段の増配を考えていく必要があると認識している。

以上